

J.P.モルガン 事業のご案内

J.P.Morgan

Company | J.P.モルガンについて

J.P.モルガンは有数の金融機関として、グローバルに展開する幅広い商品とともに、世界100カ国以上のお客様に革新的かつ適切なソリューションを提供しています。当社は過去200年以上にわたり、お客様の事業や資産管理を助け、お客様の利益を常に第一に考えてまいりました。このような商品における強み、知的資本、お客様に対する確かな考え方を持ち合わせていることで、金融業界のリーダーとしての地位を確固たるものとしています。

J.P.モルガンは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーの法人向け金融サービスを表すマーケティングブランドです。

JPモルガン・チェースについて

持株会社であるJPモルガン・チェースは、世界60カ国以上に営業拠点をもち、総資産額2.2兆ドルを有する世界有数の金融サービス会社です。1799年以来、200年以上の歴史を誇り、数々の名門企業との合併を経て、法人向け業務と個人向け業務をバランス良く展開する総合金融機関へと成長しました。

JPモルガン・チェースは、投資銀行業務、個人向け金融サービス業務、中小企業向け銀行業務、コマーシャル・バンキング業務、金融取引管理事務業務、資産運用業務、プライベート・エクイティ業務において業界をリードしています。法人向けの「J.P.モルガン」、および個人向けの「チェース」の2つのブランドの下で、世界有数の事業法人、機関投資家、政府機関、ならびに米国の個人のお客様に金融サービスを提供しています。

米国を代表するダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄として採用されているJPモルガン・チェースは、総資産、収益力、時価総額などにおいても世界屈指の金融機関として高い評価を得ています。

日本におけるJ.P.モルガン

J.P.モルガンは、日本において主に金融機関や事業法人を対象に金融サービスを提供しています。

JPモルガン証券株式会社、JPモルガン・チェース銀行東京支店、JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社、J.P.モルガン・グローバル・トレード・サービス株式会社の4社がそれぞれの業態に応じ、投資銀行業務、資金決済業務、資産運用業務、海外資産管理業務の媒介などを行っています。グループとして、お客様からの多様なニーズに取り組み、最適なサービスを提供できる体制を整えています。



Culture | 文化

「常に一流のビジネスを一流の方法で実践すること、これがいつも私どもの念頭にあることを申し述べさせていただきます。」

J.P.モルガン・ジュニアは、1933年5月に開かれたアメリカ上院銀行・通貨委員会の公聴会で冒頭の言葉を述べました。70年以上を経てなお、この言葉は、毎日60カ国以上で活動する当社の仕事に対する取り組み方を表現しています。お客様へのサービス提供にあたり、会社も社員も最も高い倫理水準を保つことで、当社は世界で最も信頼され尊重される金融機関のひとつとなっています。

お客様からは、当社がお客様のニーズを理解し、お客様のために行動する点を評価していただいています。パートナーシップや信頼を重要視し、常によりよい成果を目指す姿勢を保つことで、世界中の優秀かつ同じような志を持つ人材を惹きつけています。当社は、成果を出し、約束を守り、また自らを最も高い水準に保つことのできる人材を採用しています。

人材

当社のブランドとあわせて、当社の人材は当社にとって最も価値のある資産です。金融サービスのようにダイナミックで革新的、また複雑な業界においては、最高の人材が必要です。当社は多様な人材を取り込み、成果に応じて成功できる環境を整えることに注力しています。社員一人一人の可能性を障壁なく最大限に引き出せるよう努めています。

多様性

人材の多様性は当社の強みであり、当社は多様な人材を取り込み、成果に応じて成功できる環境を整えることに注力しています。興味深い経験や様々な経歴を持つ人材が、グローバルな事業を成長させる基礎であると考え、そのような人材を積極的に採用しています。

価値

当社のビジネスの進め方や成果の中に、当社の価値観が反映されているといえます。お客様や地域社会に対して正しいことをすることが、当社の株主の利益にかなうと信じております。

- お客様および株主のために最も高い水準に則って働きます。
- お客様のためにグローバルなプラットフォームを十分に活用し、また協調性を持って働ける人材を採用しています。
- 当社には力強く、開かれた文化があります。社員は同僚に対し、率直かつ建設的な意見をフィードバックすることができます。
- 社員は、個人個人の成果、能力、性格に応じて、最大限の可能性を發揮すべきであると考えます。
- 一貫した事業方針に則って当社を経営するよう努めています。お客様や地域社会に正しいことをすることが、当社の株主の利益にかなうと信じております。
- 同僚に対しては敬意を持って接します。様々な考え方があることで、お客様のために最良のソリューションを提供できる強く創造性に富んだビジネスを展開できると考えています。

Business | J.P.モルガンのビジネス

J.P.モルガンは日本において、アセット・マネジメント、インベストメント・バンク、セキュリティーズ・サービス、トレジャリー・サービスの各部門のビジネスを展開しております。

アセット・マネジメント

「JPモルガン・アセット・マネジメント」グループは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー傘下の資産運用部門です。世界最大級のアセット・マネジメント・グループの一つとして、アメリカ、欧州、アジアといった地域をベースに、世界中の機関投資家や個人投資家の皆様に資産運用サービスをご提供しています。

「JPモルガン・アセット・マネジメント」グループは、世界各地に拠点を配し、そのグローバルなネットワークを最大限に活用しながら、株式・債券などの伝統的資産から、ヘッジファンドや不動産、プライベート・エクイティといったオルタナティブまで幅広い投資対象の運用商品を投資家の皆様にご提供しています。多種多様な運用手法を駆使し、200以上の運用ストラテジーの中から、投資家の皆様に最適なソリューションをもたらすべく、日々努力を重ねています。

日本ではJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社として業務展開しています。

日本においては、JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が、年金基金など国内の機関投資家の皆様に向けた資産運用サービスのほか、銀行や証券会社などの金融機関を通じて個人投資家の皆様に投資信託商品をご提供するなど、様々な運用サービスを行っています。

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社は、日本市場に最も早く進出した外資系資産運用会社のひとつです。その前身が日本の金融業界の規制緩和と共に1985年に投資顧問会社として東京に設立され、また外資系資産運用会社の第一陣として1990年に投資信託委託会社の免許を取得しました。そして、2007年に大阪、2010年に福岡と名古屋に支店を開設しました。東京以外に支店を有する数少ない外資系資産運用会社のひとつとして、日本全国のお客様に、より地域に根ざしたきめ細やかな販売サポートやサービスのご提供を目指しています。

インベストメント・バンク

J.P.モルガンのインベストメント・バンクは、豊富な活動実績を基に金融市場で重要な役割を担い、政府系機関、機関投資家、事業法人などにM&Aをはじめとする戦略的アドバイス、資金調達、マーケット・メーカー、リスク管理、外国為替などの商品・サービスを提供しています。J.P.モルガンは、強固なグローバル・ネットワークと卓越したスキルを持つ優秀な人材、そして最先端の投資技術を駆使して、様々な分野で質の高いサービスをお届けしています。

日本においては、JPモルガン証券株式会社、ならびにJPモルガン・チェース銀行東京支店を通して、お客様のニーズに即した最適なソリューションを提案しております。

投資銀行部門

世界経済を一変させた先般の金融危機以降においても、磐石な資本力を有するJ.P.モルガンは、業界屈指のグローバル・ネットワークとグループ内に銀行から証券まで有する総合力を活かし、金融商品や資本市場、各産業動向に関する専門知識を駆使しながら、様々な業界にわたる数々の大型案件を成功裏に遂行しております。

投資銀行部門の主な業務は、M&Aアドバイザリー業務と、株式・社債の発行やシンジケート・ローンなどを通じたお客様の資金調達の支援です。いずれも、事業および財務戦略上の選択肢の提案から案件(ディール)の執行まで一貫したサービスを提供します。

J.P.モルガンは、日本においても80年以上の長期にわたり様々な分野で業務を展開してきており、各分野において傑出した実績を有しております。2009年は業界誌のユーロマネー誌においてM&A、株式並びに債券全ての分野で数々の賞を受賞致しました。J.P.モルガンは、今後もお客様のニーズに即した最良のサービスを提供し、お客様の企業価値の向上に貢献してまいります。

投資銀行部門で提供するサービスのうち、証券業務、シンジケート・ローンの組成、財務アドバイザリー業務その他の投資銀行業務ならびに貸金業法に基づく貸付けはJPモルガン証券株式会社を通して行っており、銀行法に基づく貸付業務、その他の商業銀行業務についてはJPモルガン・チェース銀行東京支店を通して行っています。

最高水準のサービスを提供する M&Aアドバイザリー業務

J.P.モルガンにとり、M&Aアドバイザリー業務は常に最も重要な業務の一つであり、グローバルに数多くの大型M&A案件を手がけてきました。日本においても、企業価値を効率的に高める手段としてM&Aに対する注目が高まる中、J.P.モルガンは数多くの代表的なM&A案件に携わり、お客様から高い評価を頂いています。

業界再編に関わる事例としては、2009年10月発表の新日本石油と新日鉱ホールディングスの経営統合（総額約1兆900億円）、2009年11月発表の三菱ケミカルホールディングスと三菱レイヨンの経営統合（総額約4,600億円）等において、業界に対する深い知見や資本市場のダイナミズムに関する広範な理解を活かして、お客様に対して質の高いM&Aアドバイザリー・サービスを提供しました。

また、今後一層の増加が見込まれる日本企業のクロスボーダー案件においても、2009年4月発表の麒麟ホールディングスによる豪州ビール会社ライオンネイサンの子会社化（総額約2,300億円）、2009年10月発表の米製薬セプラコールの大日本住友製薬への売却（総額約2,500億円）、2010年1月発表のLiberty GlobalによるJ:COM持分のKDDIへの売却（総額約3,617億円）、2010年7月発表のDimension DataのNTTへの売却（総額約2,860億）など、J.P.モルガンの充実したグローバル・ネットワークを活用し積極的に取り組んでいます。

さらに、投資ファンド関連のM&Aであるペルミラによるアリスタライフサイエンス社の買収（総額約2,500億円）、楽天によるTBS株式買付け提案におけるTBS企業価値評価特別委員会に対する助言など、多種多様な案件において様々な形で財務アドバイザーとして関わっています。

この他にも、2009年12月の石油世界最大手のエクソンモービルによるXTOエナジーの買収（総額約410億ドル）、2009年1月の製薬世界最大手ファイザーによるワイス買収（総額約680億ドル）、2008年ベルギーのビール大手インベブによるアメリカのアンハイザー・ブッシュ買収（総額約595億ドル）など、J.P.モルガンはグローバルの主要案件においても財務アドバイザーを務めています。J.P.モルガンでは、お客様の企業価値を高めるため、経験に裏打ちされた高度なノウハウを駆使し、国内外の資本市場に精通した金融のプロフェッショナルによるきめ細やかなアドバイザリー・サービスを通じて、持続的にお客様の満足と信頼を獲得できるよう努力しています。

M&Aアドバイザリー業務は、JPモルガン証券株式会社を通して行っています。

グローバルに展開する 株式資本市場業務

株式資本市場業務では、お客様の資本・資金調達や新規株式公開などの資本政策に関する助言およびデリバティブ等を使った幅広いソリューションの提供、またこれに伴う取引のエグゼキューションを行っています。

サブプライム問題に端を発する先般の金融危機下においても、J.P.モルガンは業界屈指の強固なバランスシートを背景に、数多くの大型案件を手掛けています。2008年、サブプライム問題に伴う信用不安の中で資本増強を実行したUBS、ソシエテ・ジェネラル等の金融機関に対し、J.P.モルガンは主幹事証券として迅速に案件を遂行しました。また、米国史上最大規模となった約2兆円のVisa IncのIPOにおいても主幹事証券として案件を成功に導きました。2009年には、HSBCによる約2兆円のライツ・オフリング、2009年最大規模となったフォード・モーターによる約3,000億円の転換社債等を執行するな

ど、卓越した執行能力・機動力を誇り、世界的な企業から高い信頼を集めています。その結果、2007年から3年連続でグローバル株式および株式関連案件で第1位の引受実績*を確立しました。2010年においても、グローバル史上最大規模となった中国農業銀行(ABC)による約2.5兆円のIPO、フォルクスワーゲンによる約6,000億円のライツ・オフアリング等においてブックランナーを務めており、マーケットリーダーとして不動の地位をより強固なものとしています。

こうした強力なグローバル・ネットワークと幅広い商品展開力を背景に、日本国内の株式資本市場においても近年着実な成長を遂げており、IFR、ユーロマネー誌、ファイナンスアジア誌等の業界誌から数多くの賞を受賞しています。J.P.モルガンは、2007年最大のIPOとなったソニーフィナンシャルホールディングスのグローバルIPOのブックランナーを務め、2008年12月には三菱UFJフィナンシャル・グループによる総額4,170億円のグローバル・オフアリングにおいてグローバル・コーディネーター兼ブックランナーを務めました。非常に不安定な市場環境の中、優良機関投資家から需要を喚起し、2008年最大規模となるエクイティ案件を成功に導きました。結果として、J.P.モルガンは2007年、2008年連続で日本株式および株式関連案件において外資系証券会社第1位*の地位を獲得しております。

2009年以降、三井住友フィナンシャルグループによる総額9,231億円のグローバル・オフアリング(2009年6月)、みずほフィナンシャルグループによる二度(2009年7月/総額5,520億円、2010年7月/総額7,800億円)のグローバル・オフアリング、並びに三菱UFJフィナンシャル・グループによる二度目、総額1兆700億円のグローバル・オフアリング(2009年12月)においてブックランナーを務め、J.P.モルガンは2008年

以降の3メガ銀行案件の6件中5件を担当した唯一の外資系投資銀行となりました。また、事業法人に関しても、2009年7月の全日本空輸による総額1,489億円のグローバル・オフアリング、2010年7月の国際石油開発帝石による総額5,422億円のグローバル・オフアリング等においてブックランナーを務め、日本におけるマーケットリーダーとしての地位を築いています。

株式資本市場業務は、JPモルガン証券株式会社を通して行っています。

*出所: Dealogic

マーケットを主導する 債券資本市場業務

お客様の円滑な資金・資本調達やALM分析などの手法を用いた総合的なリスク・マネジメントなど財務戦略に関わる幅広い提案の実施、またそれに伴う取引を債券の発行を通じ執行するのが債券資本市場業務です。

J.P.モルガンは、2009年2月には、事業債として過去最大級の案件となるロッシュ債において主幹事を務めたことを筆頭に、起債市場をリードする案件を数多く手がけています。

こうしたグローバルに卓越した案件執行能力を背景に、日本国内の債券市場においても、中部電力債、三菱地所債、住友電気工業債、東京急行電鉄債など、起債頻度の高い国内発行体による起債で主幹事を務め、着実に引受実績を伸ばしています。また、海外発行体が日本市場で円貨建資金を調達するサムライ債の分野においても、年々その存在感を強めており、J.P.モルガンの強力なグローバル・ネットワークおよび卓越した案件遂行能力を活かし、米国、フランス、韓国、タイなど、様々な国から数多くの発行体を日本市場に紹介することに成功しております。

また、本邦発行体による海外市場で

の外貨調達においても、2009年10月に弊社が主幹事を務めた日本政策金融公庫(国際協力銀行)によるグローバル・ドル債(総額30億ドル)が、EUROMONEY誌よりJapan Deals of the Yearを授与されるなど、トップクラスの実績を誇っています。最近では、2010年9月に発行された27年ぶりとなる三菱商事によるドル建普通社債(総額5億ドル)、同じく2010年9月に発行された三菱東京UFJ銀行によるドル建普通社債(総額20億ドル)をはじめ、2010年1月の日本政策金融公庫(国際協力銀行)によるグローバル・ドル建政府保証債(総額12.5億ドル)など、多様なセクターの大型案件引受実績を有しています。

さらに、昨今の非常に不安定な市場環境の中、ALM分析を通じた総合的なリスク・マネジメント戦略の立案・実行にも積極的に取り組んでおり、卓越したリスク分析能力・デリバティブ組成能力の面でもお客様から高い評価をいただいています。

債券資本市場業務は、JPモルガン証券株式会社を通して行っています。

長年の歴史と実績を誇る シンジケート・アンド・ レバレッジド・ファイナンス業務

J.P.モルガンは、シンジケート・ローンやメザニン・ファイナンスの組成について、長い歴史と伝統を持ち、業界リーダーとしての実績と圧倒的な市場地位を確立しています。

サブプライム問題に端を発する先般の金融危機下においても、J.P.モルガンは安定したバランスシートと柔軟なストラクチャリング能力を強みに市場リーダーとしての地位を維持し、更に発展させてきました。その裏づけとして、シンジケート・ローン全般において過去13年連続で世界第1位のブックランナー実績*を獲得しています。2008年には、未曾有の金融危機による歴史的に困難な金融市場環境の最中、J.P.モルガンは、ベルギーのビール大手インペブによる米国アンハイザー・ブッシュ買収に際して過去最大級である総額548億ドル(約5兆8千億円)の買収ファイナンスを主導的にストラクチャリング・引受・組成しました。また、2009年3月の米国ファイザーによるワイス買収における買収ファイナンス総額225億ドル(約2兆5千億円)をはじめとする数多くの大型案件をグローバルに手掛けております。

日本においては、2008年3月、欧州系バイアウトファンドであるペルミラ・アドバイザーズによる、農薬大手アリスライフサイエンス株式会社買収のために、総額1,850億円のLBOローンを共同主幹事として組成しました。本件は、ペルミラにとって日本での第一号案件となりました。同案件における総額450億円のメザニン・ファイナンスは、アジアで組成されたLBO向けメザニン・ファイナンスとして最大級の案件です。本件は2008年にIFRよりローン・オブ・ザ・イヤー(アジア・パシフィック)賞およびローン・オブ・ザ・イヤー(アジア・パシフィック)賞を受賞しました。2009年3月には、ソニー株式会社向けに18.7億ドル(約1,820億円)相当の多通貨コミットメントライン・ファシリティの組成に成功しました。このようにJ.P.モルガンは日本でもシンジケート・ローン市場においてマーケットリーダーとしての確たる地位を築いています。

シンジケート・アンド・レバレッジドファイナンス業務のうち、シンジケート・ローンの組成ならびに貸金業法に基づく貸付けはJPモルガン証券株式会社を通して行っており、銀行法に基づく貸付業務その他の商業銀行業務についてはJPモルガン・チェース銀行東京支店を通して行っています。

*出所: Dealogic

法人営業本部

法人営業本部は、日本の事業法人や海外企業の在日子会社、金融法人および公共法人のお客様に対し、グローバルかつ総合的な金融サービスを提供しています。お客様の資金調達、外国為替および関連業務、オペレーティング・サービス業務（資金決済、グローバル・キャッシュ・マネジメントなど）、デリバティブ・コモディティ業務などの総合営業窓口を担う一方、リレーションシップ・マネージャーとしてJ.P.モルガンの各プロダクト・チームと緊密な連携を取りながら、お客様の業界別に専属の担当チームを編成し、海外ではニューヨーク・ロンドン・シンガポールに日系法人担当者を配して、総合的な金融サービスを提供しています。また先進的な商品を多数提供しており、特に外国為替、資金決済、デリバティブ業務などに関しては圧倒的な実績を有しています。

法人営業本部の業務は、JPモルガン・チェース銀行東京支店またはJPモルガン証券株式会社を通して行っており、同本部に所属する役職員は両法人の兼職をしている場合があります。

債券部門

J.P.モルガンは、金利・クレジット業務において、歴史的にそして世界的に高い実績を持ち、1980年代の金利スワップ、1990年代のクレジット・デリバティブなど、常に新しいマーケットを切り拓くフロントランナーとして走り続けてきました。日本の債券市場においても、多角的な市場分析と各種債券、仕組み債、金利・為替、信用リスクのヘッジ商品やデリバティブなど総括的な商品提供力、販売力、トレーディング力を発揮し、市場では常にトップクラスにランクされ、特にデリバティブ取引においてはマーケットリーダーとしての地位を確立しています。

国際金融機関としての世界屈指の資本力に加え、歴史と伝統に裏付けられたノウハウの蓄積、グローバル・ネットワークからもたらされる情報と分析力、卓越したリスク管理能力などにより、J.P.モルガンの優れた商品組成力・マーケットメーク力は広く認知されています。

国内債業務では、日本国債、政府保証債、地方債、財投機関債、金融債、事業債、資産担保証券、サムライ債、CPなどの商品を取り扱っており、外国債の分野では、米国債、ユーロ債、欧州諸国の国債から、アセット・スワップ、エマージング・プロダクトに至るまで幅広い商品を網羅しています。セールス部門、商品開発部門、トレーディング部門が緊密に連携する体制をとることにより、高度なリスク管理能力を最大限に活かし、多様化する資金調達・投資ニーズに対するソリューションを積極的に提案しています。

J.P.モルガンは、金利関連ビジネスとともに、信用リスクビジネスにおいてもマーケットリーダーとして卓越したリサーチ力、最先端の信用リスク・マネジメント手法を駆使し、日本のお客様を熟知した販売力で幅広い商品を提供しています。事業法人、金融法人、政府系金融機関などの発行体を対象とした世界各国の投資適格債やハイ・イールド債の組成、プライマリーならびにセカンダリー両市場での売買および仲介、クレジット・デリバティブ取引や証券化業務など、クレジット市場に深くコミットしています。

当社では、金利と信用リスク、および株式デリバティブの商品組成チームを統合し、クロス・アセット商品の開発力を強化して、経済動向などによって移り変わるお

お客様のニーズの変化に敏感に対応できる体制を整えています。各分野のスペシャリストが緊密に連携するクロス・アセット・ストラクチャリングチームの存在と高度かつ包括的な金融技術を駆使することで、複数の投資商品をひとつのパッケージにしたり、デリバティブ技術を活用したオーダー・メイドのストラクチャーを組むなど、お客様のニーズに合わせた投資商品を常に提案しています。

2007年以降のサブプライム問題に端を発した金融市場の混乱の中でも、J.P.モルガンは金利・クレジット市場の最も有力な参加者として市場と顧客ビジネスに深くコミットし、その存在感を更に顕著に高めています。

債券部門の業務は、JPモルガン証券株式会社を通して行っています。

株式部門

J.P.モルガンの株式業務は、お客様のニーズを熟知した魅力ある商品の開発力、グローバル・ネットワークを活かして確立されたディストリビューション・プラットフォーム、さらに質の高いリサーチ提供を含めたセールス能力と安定したエグゼキューション能力により、世界中のお客様から高い評価をいただいています。プライス、スピード、クオリティにおいて競争力のあるサービスを常に提供しており、この日々の積み重ねがお客様との信頼関係を深め、顧客ネットワークの拡大に繋がっています。また、ダイレクト・マーケット・アクセスやアルゴリズムック・トレーディングなどの高度なテクノロジーを活用した電子取引プラットフォームの強化およびサービス提供にも注力しています。

J.P.モルガン証券株式会社の株式部門は、2001年3月にアジアや欧州などに強みを持つジャーディン・フLEMING証券会社から営業譲渡を受けたことにより、長期的なリレーションシップを構築している幅広い顧客基盤も獲得しました。また、国内の金融機関や日本を拠点とした外資系機関投資家、アジア・欧州・北米の年金系、投信系機関投資家およびヘッジファンドなどの強固なカバレッジも有しており、近年は日本市場へのコミットメントもより一層強化して、さらなる顧客基盤の拡充を図っています。

お客様ニーズに沿った個別の日本株式および株式デリバティブのブローカレッジ・サービス、マーケット・メイキング、株式投資戦略、キャピタル・マーケット・アドバイザリー、引受けなどの総合的なサービスも高い評価を得ています。中でも、コア・コンピタンスである株式デリバティブ業務は、専門性の高い優れた人材を擁し、海外拠点はもとより債券や為替といった他部門との協力や、トレーディング部門と営業部門を通じて収集したお客様のニーズを踏まえ、革新的な商品を開発して市場に送り出しています。

また、マーケットリスクの軽減、資本金強化、バランスシートの流動性の改善などを旨とするお客様ニーズに合わせて株式デリバティブを活用しつつ、フロー、エキゾテック、ハイブリッド商品などを含めた幅広い商品群の実績を積み重ねています。

J.P.モルガンの革新的な株式投資およびデリバティブ業務については、2009年にアジア・リスク誌よりデリバティブ・ハウス・オブ・ザ・イヤーを、2010年にはリスク誌よりベスト・デリバティブ・ハウス、そしてファイナンス・アジア誌からは最優秀外国投資銀行を受賞しています。

株式部門の業務は、JPモルガン証券株式会社を通して行っています。

為替資金統括本部

為替資金統括本部では、お客様の様々なニーズに応じて、為替に関する総合サービスを24時間体制で提供しています。常に動いている市場に昼夜を問わず対応し、お客様の注文を迅速に執行できる体制を整え、為替市場動向分析などのグローバルなリサーチや拡大する為替eコマースサービスの提供のほか、様々なお客様の個別のニーズに合致した為替戦略の構築・提案・商品の開発を行っています。いかなるタイミングにおいても継続的に安定したサービスをお届けし、今後も外国為替市場の流動性向上にリーダーシップを発揮してまいります。

為替資金統括本部は、国内の事業法人や機関投資家のみならず、グループのネットワークを駆使し、海外のヘッジファンドや機関投資家などに対しても積極的にビジネスを展開しています。また、グローバルなネットワークと、そのリサーチ力を通じて個々のお客様に最適なソリューションを提供できる体制を備えています。

日本では60年を超える歴史と実績を基に、お客様との長期的な取引関係を構築し、高い信頼を得ています。またお客様からの総合評価も非常に高く、顧客調査では常にトップランクに位置しており、今後もその高い評価と信頼を維持し続けてまいります。

為替関連の業務は、主にJPモルガン・チェース銀行東京支店を通して行っています。

調査部門

J.P.モルガンの調査部門は、マクロ経済、株式、債券、為替、クレジット担当に分かれ、日々の業務では、各グループが緊密に連携し、グローバル・ネットワークに基づき、あらゆる金融分野について多角的な調査情報をお客様に提供しています。

調査部門の業務は、為替調査はJPモルガン・チェース銀行東京支店、その他はJPモルガン証券株式会社を通して行っています。

マクロ経済調査では、グローバルに約40名のエコノミストを擁し、先進国・エマージング諸国の景気物価情勢および政策動向の分析を行っています。経済のグローバル化が進展する中、J.P.モルガンのエコノミストは常に連絡を取り合い、グローバル経済に対する認識を共有した上で、世界各国・地域のマクロ経済分析・予測を行い、投資戦略の基礎となる最新のマクロ金融経済情報を提供しています。

J.P.モルガンのエコノミストには中央銀行出身者も多く、その経験を活かした金融政策に関する分析・予測が注目されています。日本のマクロ経済調査チームも、BOJウォッチャーとしての役割が期待されているほか、政策当局の動向に関する情報もダイナミックに提供しており、世界の投資家から高い評価を頂いております。

株式調査は、全世界に300名を超えるシニアアナリストを擁し、世界各国の3,000を超える銘柄について調査・分析を行っています。日本の株式調査部には25名を超えるアナリスト、ストラテジストが在籍し、およそ250銘柄の日本株の調査ならびに投資戦略分析を行っています。アナリスト、ストラテジストの多くは、インスティテューショナル・インベスター誌、経済紙で行われる人気アナリストランキングで常に上位にランクされるなど、国内外の機関投資家から高い評価を受けています。

株式調査の特徴は、広範囲におよぶ調査ユニバースと世界各地に拠点を置くセクターアナリストが緊密に連携し合い、より洞察力に富んだファンダメンタルズ分析を提供している点です。投資戦略を立案するストラテジストや個別銘柄の投資判断まで踏み込むアナリストは、これらを基に、投資機会の獲得に役立つ情報を調査レポートとしてまとめ、世界中の機関投資家に向けて発信しています。ビジネスの国境および産業間の境界線が薄れつつある現在、グローバルな投資環境は拡大し続けており、調査体制のさらなる拡充を図っています。

債券調査は、マクロ・ファンダメンタルズ、バリュエーション、需給、会計/制度、そして構造要因など多面的な分析手法を用いながら、日本債券市場・海外債券市場の分析・見通し・投資戦略などを提案しています。常に質の高い分析を発信していることが評価されており、米国ではインスティテューショナル・インベスター誌で当社債券調査チームが一位にランクされるなど、幅広い顧客層から高い支持を得ています。欧州・日本でも高い評価を受けており、世界各市場でトップクラスのストラテジストが相互連携することによって、更に精度の高い見通しを提供することを目指しています。

市場分析ツールや債券インデックスの開発にも携わり、世界中の金利市場でビジネスを展開する上で必要なインフラ

の一部を提供する役割も担っています。グローバルなネットワークを活用した、金利やクレジット、デリバティブの計量分析においても、多角的かつ斬新なアプローチは高い支持を得ています。

また、債券調査部門は、トレーダー・営業と密接に意見交換しながら、今後のビジネス機会を探る重要な役割も負っています。市場分析だけではなく、幅広く債券市場のビジネスと関わることが求められます。

為替調査は、ロンドン、ニューヨーク、東京の3拠点に12名のストラテジストを擁し、主要通貨についての調査・分析、投資戦略の立案を行っています。通貨間の交換レートという商品の特性上、為替の動向を見通す上では各拠点間の緊密な連携が不可欠です。各拠点の為替ストラテジストはエコノミストや他市場をカバーするストラテジストとも連携しつつ、機関投資家、ヘッジファンド、事業法人、金融当局など幅広い顧客層に対して有益な情報提供に努めています。

日本の為替調査チームは、海外のお客様に対しては日本の政治・経済、フローの動向など、主に円にフォーカスした情報提供を行っています。国内のお客様に対しては、グロ

ーバルなネットワークを背景とした高い情報収集能力を活かして、主要通貨のみならずエマージング通貨についても幅広い情報提供を行っております。グローバルの為替調査チームはインスティテューショナル・インベスター誌の2010年全米投票で首位を獲得、また日本の為替調査チームはユーロマネー(日本版)において3年連続で首位を獲得するなど、国内外のお客様から高い評価を得ています。

クレジット調査では、米国・欧州・アジア・日本の4拠点に席を置く総勢100名に上るアナリストが、グローバルな発行体の多くを網羅し、信用リスクを調査しています。ハイ・イールド市場やエマージング市場についての調査の他、法制度改正など、クレジットリスクに影響を与える可能性のある出来事についても機動的に収集した情報を基に、今後のクレジットストーリーの展開を分析し、グローバルな観点での投資ストラテジーの提案に努めています。

チーフ・インベストメント・オフィス

チーフ・インベストメント・オフィスでは、金利および為替持高の管理、イールドカーブやリラティブ・バリューのトレーディング、オプションをベースとしたヘッジやポジション・テーキング、資産負債管理などを目的とした、トレーディングを行っています。金利リスク管理においては、専門知識を駆使して総運用利回りを最大限に高めることを目指しています。トレーディング対象商品には日本国債、レポ、スワップ、先物、モーゲージ証券、オプション、為替などがあります。

チーフ・インベストメント・オフィスの業務は、主にJPモルガン・チェース銀行東京支店を通して行っています。

国際資金部

国際資金部では、社内の各部門がお客様のニーズに適った財務ソリューションを提供する際の資金運用調達ニーズへの対応とそれにより発生する流動性リスクの管理を一元的に行っています。インターバンク資金取引や債券レポ、スワップ、為替、預金、ローンなどの金融商品を通して世界各地のマーケットへのアクセスを確保し、継続的かつ最適な資金運用調達を行うことにより、ホールセール業務における資金効率を最大限に高めています。

国際資金部の業務は、JPモルガン・チェース銀行東京支店を通して行っています。

セキュリティーズ・サービス 資産管理業務

J.P.モルガンのワールドワイド・セキュリティーズ・サービスは、世界最大級のグローバル・カストディ・サービスを中心として、世界中の機関投資家の皆様にさまざまな資産管理サービスを提供しています。

日本においては、海外の拠点が提供するグローバル・カストディ、セキュリティーズ・レンディング、グローバル・ファンド・サービス、クリアリング、コラテラル・マネジメント等のサービスを、信託銀行、保険会社、資産運用会社、証券会社およびその他金融機関に提供し、お客様の外国証券投資のお手伝いを行っており、グローバル・カストディ業務では最大規模のシェアを有しています。

日本における資産管理サービスの媒介業務は、JPモルガン証券株式会社にて行っています。

DR(預託証券)業務

刻一刻と変化する金融市場では、様々な資産あるいは事業に対応する商品や資金調達の仕組みを開発し、迅速に業務を遂行する高い能力を求められています。例えば、日本企業がニューヨーク証券取引所やナスダックに上場する場合には、ADR(米国預託証券)という米国で流通する証券に形を変えて上場する必要があります。ADRは、1927年にJ.P.モルガンが最初に開発した商品であり、2007年4月にはADR創設80周年を迎えました。最近では、株式の流動性向上やIRのために、米国店頭市場で流通するADRをつくる日本企業も増えています。J.P.モルガンは、ソニーをはじめとした日本を代表する企業の米国市場での上場を支えてきたこれまでの経験から、ADRの提供を介して、米国だけでなく国際的に投資家層を広げる日本企業をサポートしています。

DR(預託証券)の業務は、JPモルガン証券株式会社を通して行っています。

トレジャリー・サービス

J.P.モルガンのトレジャリー・サービスは、世界最大のキャッシュ・マネジメント・サービスを提供、革新的な商品を開発し、国際金融に関連したソリューションをお客様に提案しています。具体的には、日々の送金、取立、リクイディティ・アンド・インベストメント・マネジメント、トレードファイナンス、コマースカードなどのサービスや、それらに関わるさまざまな情報などを、世界各国の大企業、金融機関、中小企業、政府等の公共機関に提供しています。

J.P.モルガンは1日で5.05兆USDドル、毎秒55百万米ドル超に相当する米国送金決済を処理しております。トレジャリー・サービスの拠点は39カ国におよび、4000を超えるコルレス銀行との繋がりにより業界随一のネットワークを構築しております。

日本における歴史ならびにキャッシュ・マネジメントとの関わりは1940年代に遡り、本邦で重要な機能を持つ東京ドル・クリアリングを1986年より4半世紀近く運営しています。

トレジャリー・サービスはそれぞれの市場において世界的リーダーシップと規模を誇り、日本での業務に関する各種アワードを含め、各国において金融業界のリーダーとして認められています。

トレジャリー・サービスの業務は、JPモルガン・チェース銀行東京支店およびJ.P.モルガン・グローバル・トレード・サービス株式会社を通して行っています。

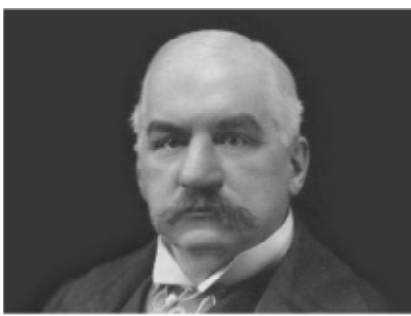
History | J.P.モルガンの歴史

J.P.モルガンは、200年以上にわたりお客様が一流のビジネスを実践できるようお手伝いしてまいりました。過去から現在にいたるまで、革新的で一貫した助言や執行など、お客様に対するソリューションにおいて長期的な視野と手法を用いてまいりました。次の200年においても、お客様に一流のサービスを提供し続けることを心待ちにしております。

J.P.モルガンには、特に金融危機の際にリーダーシップを発揮してきた歴史があります。そして、今もその伝統を引き継いでいます。会社設立時から、ビジネスや社会、世界の様々な出来事に寄与してまいりました。当社は、現在そして未来に向けて常に正しいことをするという信念のもとに行動しています。

J.P.モルガンの詳細な歴史は、ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.jpmorgan.co.jp/about/history/>



1871年に後のJ.P.モルガン&カンパニーとなる会社を設立したジョン・ピアポント・モルガン



1907年金融危機当時のウォール街の様子

J.P.モルガン&カンパニーの起源と影響力

JPモルガン・チェース&カンパニーの社名の一部は、前身企業の1社J.P.モルガン&カンパニーから取られています。J.P.モルガン&カンパニーは、1871年にドレクセル・モルガン&カンパニーの社名で、J.ピアポント・モルガンとフィラデルフィアの銀行家アンソニー・ドレクセルにより設立されました。この商業銀行のパートナーシップは、当初ヨーロッパからアメリカに対する投資の代理店でしたが、最終的にはアメリカの産業の発展にかかる資本の大部分を調達する銀行組織へと成長しました。ドレクセル・モルガンはアメリカにおける超一流の民間銀行組織として、急速にアメリカ国内および国際的な銀行業務を確立しました。

最初の大きな取引の成功は1879年です。同社は、資本家ウィリアム・バンダービルトが保有していたニューヨーク・セントラル鉄道の株式を、当時最大数の株式売り出しであったにもかかわらず、株価を下げることなく売却することに成功し、モルガンの資本調達能力や証券販売能力を世に広めました。この株式売却を経て、モルガンは鉄道業界と緊密に連携するようになります。19世紀末のアメリカでは、鉄道業界は供給過多と運賃割引競争により疲弊しきっていました。J.ピアポント・モルガンはこの状況にビジネス・チャンスを見出します。モルガンは、資金的に行き詰まっている鉄道会社に対し、経費の削減や債務のリストラを断行、また、自分が運用するトラスト会社に鉄道株式を預託したり、信頼できる経営者に鉄道会社の経営に当たらせるなど、様々な手法を通じ鉄道業界の統合・再編を進めました。これら一連の動きは「モーガニゼーション」と呼ばれ、ノーザン・パンフィック鉄道、エリー鉄道、リーディング鉄道、その他数多くの鉄道会社にこの手法が活用されました。J.ピアポント・モルガンの晩年までに、アメリカ全土の線路の約6分の1がモルガンの支配下となっていました。

1890年にアメリカの鉄道網の敷設がほぼ完了すると、モルガン家は、ジェネラル・エレクトリックやU.S.スチール、インターナショナル・ハーバスターなど、鉄道以外の産業の大合併にも資本を出すようになります。J.P.モルガン&カンパニーは、世界で最も影響力のある投資銀行となり、J.ピアポント・モルガンは、史上最も影響力のある銀行家と評されるようになります。

J.ピアポント・モルガンは、その知見と判断力が高く評価されており、様々な会社同士の問題に個人的に介入したり、アメリカの経済危機に際しては先頭にたって解決策の立案と実施にあたりました。1894年、アメリカ国庫の金準備高が激減したときには、シンジケートを組んで金を調達し、また、1907年の金融危機に際しては、個人的な影響力を行使して、トラスト数社および大手証券会社を救い、ニューヨーク市に緊急財政援助し、ニューヨーク証券取引所を救済するなど、危機の打開に中心的な役割を果たしました。

日本における歴史

J.P.モルガンの日本における歴史は1920年代にさかのぼります。関東大震災の翌年1924年に、J.P.モルガンは日本政府が最初に発行した米ドル債である1億5,000万ドルの震災復興公債を引き受けました。この功績が認められ、1927年にはJ.P.モルガン・ジュニアと他2人のパートナーが日本政府より勲章を授与され、以後、日本国内でも事業を広げていくことになりました。

一方、JPモルガン・チェース銀行の前身であるチェース・ナショナル銀行は、終戦から2年後の1947年に東京支店を設立。商業銀行としてMBF(軍用銀行)などを開設、以後、為替ディーリングの業界リーダーとして日本経済の復興とともに歩んできました。



1924年に震災復興公債引受を手がけた
J.P.モルガン&カンパニーのパートナー
トーマス・ラモント



1947年チェース・ナショナル銀行



1949年チェース・ナショナル銀行大阪支店

Our timeline in Japan

1924年 J.P.モルガン、関東大震災の震災復興公債1億5,000万ドルを日本政府から引き受ける	1987年 J.P.モルガン証券会社東京支店を開設	2002年 チェース信託銀行がモルガン信託銀行に業務の一部(資産流動化関連業務)を譲渡し、モルガン信託銀行として営業開始
1947年 チェース・ナショナル銀行が外国銀行として戦後初めて東京に支店を開設	1990年 ベアー・スターンズ証券会社東京支店を開設	2004年 J.P.モルガン・チェース・アンド・カンパニーとバンク・ワン・コーポレーションの合併に伴い、JPモルガン・チェース銀行東京支店がバンク・ワンの東京支店の全営業を譲受
1961年 J.P.モルガンの銀行部門であるモルガン銀行が東京に駐在員事務所を設立	1992年 ケミカル・バンキング・コーポレーションとマニユファクチャラーズ・ハノバー・コーポレーションの合併に伴い、両行の東京支店統合	2006年 J.P.モルガン・フレミング・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社、JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社に社名変更
1962年 ファースト・シカゴ銀行東京駐在員事務所設立	1995年 J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク東京支店を開設	モルガン信託銀行株式会社、JPモルガン信託銀行株式会社に社名変更
1969年 モルガン銀行駐在員事務所、東京支店に昇格	1996年 チェース・マンハッタン・コーポレーションとケミカル・バンキングの合併に伴い、両行の東京支店を統合	J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク東京支店、JPモルガン信託銀行株式会社に営業譲渡
1971年 ジャーディン・フレミング、東京駐在員事務所開設	ファースト・シカゴ・コーポレーションとNBDバンコープの1995年の合併に伴い、両行の東京支店統合	J.P.モルガン証券会社東京支店、組織改編によりJPモルガン証券株式会社として営業開始
1972年 グローバルな資産運用の調査拠点として、J.P.モルガンが日本での活動を開始	1997年 J.P.モルガン証券会社、東京証券取引所の会員権取得	2008年 JPモルガン証券、ベアー・スターンズ証券会社東京支店より営業譲受
ケミカル銀行東京支店開設、ファースト・シカゴ銀行東京駐在員事務所、東京支店に昇格	1999年 バンク・ワン・コーポレーションとファースト・シカゴNBDの1998年の合併に伴い、バンク・ワン銀行東京支店に名称変更	J.P.モルガン・ワールドワイド・セキュリティーズ・サービス株式会社設立
1973年 NBD銀行東京支店設立	2001年 J.P.モルガン証券会社東京支店、ジャーディン・フレミング証券会社東京支店およびチェース証券会社東京支店より営業譲受	2011年 J.P.モルガン・ワールドワイド・セキュリティーズ・サービス株式会社、JPモルガン証券株式会社と合併
1974年 チェース・マンハッタン・コーポレーションとして東京証券取引所に株式公開	モルガン銀行とチェース・マンハッタン銀行を統合し、JPモルガン・チェース銀行誕生	
1985年 モルガン信託銀行を東京に設立、チェース信託銀行を東京に設立		
ケミカル信託銀行を東京に設立、ジャーディン・フレミング投資顧問株式会社を東京に設立		

Information | 会社概要

JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー JPMorgan Chase & Company

会長兼CEO	ジェイミー・ダイモン Jamie Dimon
所在地	270 Park Avenue, New York, NY, 10017, U.S.A.
ティッカー・シンボル	JPM
ウェブサイト	http://www.jpmorganchase.com
総従業員数	約24万人(2011年3月末現在)
営業拠点地	60カ国以上
総資産	約2.2兆ドル(2011年3月末現在)

JPモルガン証券株式会社 JPMorgan Securities Japan Co., Ltd.

代表取締役会長	森口 隆宏
代表取締役社長 兼CEO	クリストファー・ハーヴィー Christopher Harvey
主要業務	投資銀行、債券、株式業務、 海外資産管理業務の媒介など
所在地	〒100-6432 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 東京ビルディング
代表番号	03-6736-1111
加入取引所	東京証券取引所(総合取引参加者)、 大阪証券取引所(現物取引参加者・先 物取引等取引参加者・ジャスダック取引 参加者・先物・オプション取引清算参加 者)、名古屋証券取引所(総合取引参加 者)、東京金融取引所(金利先物等取引 参加者・同清算参加者)
会員資格	日本投資者保護基金、日本証券業協会 、金融先物取引業協会、第二種金融商 品取引業協会、日本商品先物取引協会

JPモルガン・チェース銀行 東京支店 JPMorgan Chase Bank, N.A., Tokyo Branch

日本における代表者 兼東京支店長	クリストファー・ハーヴィー Christopher Harvey
主要業務	為替資金業務、資金決済業務など
所在地	〒100-6432 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 東京ビルディング
代表番号	03-6736-1000
加入取引所	大阪証券取引所(取引参加者)
会員資格	日本証券業協会、金融先物取引業協会

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社 JPMorgan Asset Management (Japan) Limited

代表取締役会長	サイモン・エフ・ウォールス Simon F. Walls
代表取締役社長	猪股 伸晃
主要業務	第一種金融商品取引業、第二種金融商品 取引業、投資運用業、投資助言・代理業
所在地	〒100-6432 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 東京ビルディング
代表番号	03-6736-2000
登録番号	関東財務局長(金商)第330号
会員資格	(社)日本証券投資顧問業協会 010-00105号、(社)日本投資信託協会、 日本証券業協会

J.P.モルガン・グローバル・トレード・サービス株式会社 J.P. Morgan Global Trade Services (Japan) Ltd.

代表取締役	ハンス・ヤンセンス (Hans Janssens)
主要業務	国際的貿易管理業務のソリューション提供 およびサプライチェーンの最適化に関する アドバイザリー業務
所在地	〒100-6432 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 東京ビルディング
代表番号	03-6736-7560

J.P. Morgan

J.P.Morgan